

名古屋観世会 定例公演能



能
羽

狂言
棒

和合之舞
衣・観世鏡之丞

縛・井上松次郎

小袖曾我・観世清和
観世三郎太

令和二年
一月九日(日)
12時30分開演
(11時30分開場)

◆ 令和2年度 次回のご案内 ※自由席券は、各回共通、1回に何枚でもご使用になれます。

■9月21日(祝・月) 通小町 久田 勘鷗
西行桜 梅若 実

※日程及び曲目・出演者は、変更の場合があります。

年間指定席券(2回) 16,000円
年間自由席券(2回) 12,000円

当日指定席券 9,000円
当日自由席券 7,000円

学生券(自由席) 3,000円

すでにご購入済みの「年間チケット」を指定席に変更できます。

●年間自由席→指定席に変更の場合 差額 2,000円

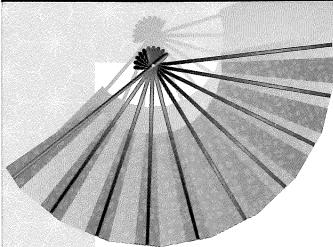
【共催】認定NPO法人 名古屋能楽振興協会

指定席券を指定日にご利用できなかった場合、年度内ならば何時でも、自由席券としてご使用できます。その時は必ず受付にて当日券に変更してください。※自由席満席の場合はご容赦ください。

お問い合わせ

名古屋観世会事務所(久田勘鷗方)
〒451-0041 名古屋市西区幅下2-10-9

TEL(052)265-5158
FAX(052)446-6025



能

羽

観世鍊之丞

是川正彦

和合之舞

福王茂十郎

喜多雅人

後見
岡 観世
久 広井上裕之真
伊藤裕貴
吉沢 旭
清沢 一政

(四時頃終了予定)

【あらすじ】駿河国三保の松原に住む白龍という漁夫が、今日も連れ立って釣りにやってきます。浦の景色を眺めていると、空に花が散り、音楽が聞こえ、いい香りがします。見回すと、松の梢に美しい衣が掛かっています。

「舞のかざしのその隙に、舞のかざしのその隙に、兄弟目を立ち去ろうとします」と、母は二人を呼びとめ、勘当を許すといい、兄弟は嬉しく泣きをします。

そして、喜びの盃をし、門出の祝いに一人で舞を舞います。

「舞のかざしのその隙に、舞のかざしのその隙に、兄弟目を立ち去ろうとします」と、母は二人を呼びとめ、勘当を許すといい、兄弟は嬉しく泣きをします。

そして、富士の狩場に急ぎます。

附祝言

能

小袖曾我

久田勘鷗
根祥丸
鬼王久田勘吉郎
五郎観世三郎太
十郎観世清和

間 佐藤友彦

坂口貴信
山階彌右衛門

縛

井上松次郎

鹿島俊裕
佐藤融

今枝郁雄

休憩十五分

仕舞 柏嵐
玉之段 崎山
須磨源氏 道行

吉沢 旭
今沢 美和
久田三津子
清沢 一政

伊藤裕貴
山中雅志
久田勘鷗
祖父江修一

井上裕之真
伊藤裕貴
吉沢 旭
坂口貴信

河村真之介
大倉源次郎
笛 竹市 学

番

組

◆小袖曾我(こそでそが)

【あらすじ】建久四年(一九三年)五月雨の頃、曾我十郎・五郎兄弟は、富士の裾野での狩の折に、親の敵・藤祐経を討とうと計画をたてます。五郎は勘当の身などで、母への暇乞いの際に、勘当を解いてもらおうと揃って母を訪れます。まずは十郎が母に面会し、五郎は物の陰より垣間見て

います。やがて十郎が戻つて、五郎を母のもとへ行かせます。が、母は、末弟の国上の禅師は寺にいるし、時致とは誰ですか?と、取り合いません。泣く泣く戻つて十郎に報告して

いると、さらには母を通じ、時致をかばうならば祐成も勘当ですと沙汰があります。十郎は五郎を伴い母に会い、五郎の母を思う心を説き、母の無情の怨みを述べて、兄弟は立ち去ろうとします。と、母は二人を呼びとめ、勘当を許すといい、兄弟は嬉しく泣きをします。

そして、喜びの盃をし、門出の祝いに一人で舞を舞います。

「舞のかざしのその隙に、舞のかざしのその隙に、兄弟目を立ち去ろうとします」と、母は二人を呼びとめ、勘当を許すといい、兄弟は嬉しく泣きをします。

そして、富士の狩場に急ぎます。

◆御案内

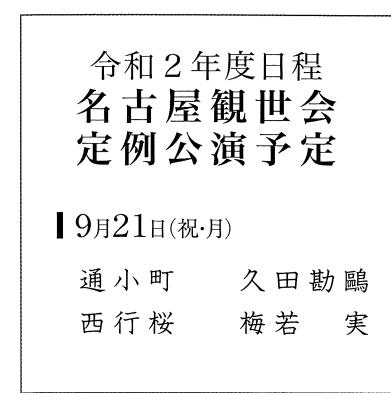
令和2年度日程
名古屋観世会
定例公演予定

9月21日(祝・月)

通小町 久田勘鷗
西行桜 梅若実

「都合に依り曲目・出演者に変更があるかも知れませんが予めご承知下さい。」
「演能中はお静かに又演能中の出入りはなるべく遠慮下さい。
「携帯電話及び時計のアラーム等はあらかじめ電源をお切り下さい。
「、幼児の入場は勝手乍らお断り致します。
「、録音撮影等はかたくお断り致します。
「、演能終了後の拍手はシテが幕に入ります迄遠慮頂ければ幸甚に存じます。

名古屋観世会



名古屋能楽堂

〒460-0001 名古屋市中区三ノ丸一丁目1番1号

TEL.052-231-0088

FAX.052-231-8756
<http://www.bunka758.or.jp/>

【共催】認定NPO法人 名古屋能楽振興協会

